

## 2019 年度平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業

## 「HIROSHIMA and PEACE」

Zahra Kalantari (テヘラン、イラン)

## 広島市立大学

広島市立大学は私にとって、仲間意識や平和的なコミュニケーションを学ぶ最高の場の一つです。私は国籍や人種を問わずに交流し友人になる方法を学びました。友人の話に耳を傾け、戦争と平和に関する体験を聞くことは素晴らしい経験になりました。この大学では、友人や先生から平和の意味を学びました。世界各地から来た友達を見つけ、彼らから友情と愛、平和を学び、私は今では世界は思っていたより狭いことを知っています。

授業に参加し、世界中の人たちと出会うこと、特に日本の人びとや学生と出会うことで、平和の意味を知ることができました。原爆投下の後に平和を見出し、よりよい世界を創ろうとする日本人の優しさのうちに、それを見つけたのです。

## 戦争の定義

授業に出席し、被爆者と面会するなかで得た最大の経験の一つは、子どもにとっての戦争の定義であり、もう一つは日本人の将来の世代へ向けて出来事を記録する方法でした。彼らは戦争を芸術に転換しています。これは、広島で起こった出来事を伝える意義深い方法です。イランの戦争生存者の語ることと被爆者の間に、私は多くの違いを見つけました。

## 被爆者との対面

被爆者との出会いはこの期間で最も大きな体験の一つでした。被爆者の話に耳を傾けることは素晴らしい経験になりました。皆さんは私に忍耐を教えてくださいました。またその語り口は重要なポイントの一つでした。イランの戦争生存者の語り方と被爆者、そしてその身に起きたことの影響を示す方法には違いがありました。

## 広島平和記念資料館

広島平和記念資料館は、私の人生において最も重要な場所の一つです。そこでは 8 月 6 日の現実のストーリーに誇張は一切なく、私は広島で起きたことを実感しました。私は成長したと思います。資料館にいた数時間のうちに、地域社会の一人ひとりが平和と非暴力的な社会のために努力すべきだと学びました。資料館の最後では、広島が街に平和をもたらし、戦争と平和の観点から広島と日本の建物や景観を再建しようとする取組に魅せられました。

## 刺激的な旅

今回の旅は私にとって非常に刺激的で、世界各地の国籍の異なる人たちから平和の意味を学ぶことができたとともに、人をその経歴で判断せずに友情や優しさを広めていくべきだと知りました。私はイランに戻ってから自身の経験と学びを共有するため、テヘラン平和博物館や平和首長会議のメンバーと会合の場を設けました。私は紛争国、特に中東で、戦争や暴力に巻き込まれた子どもたちの間で平和文化を推進する道を見つけるためのワークショップを

開催したいと思います。またテヘラン平和博物館では、イランのアーティストを招き、国内の戦争の生存者や犠牲者のストーリーを撮影したいと考えています。私は大学で核兵器や核エネルギーをより深く学ぶためのワークショップを企画しようとしています。最終的には、化学兵器による爆撃を受けた世界初の民間都市であるサルダシュトに旅行し、サルダシュトの自治体職員とワークショップまたは展示会を開催し、サルダシュトで起きたことを伝えることを計画しています。

#### 平和首長会議への具体的提言

私の意見としては、私たちは人類の生活と将来の世代を向上させるための原子力の適正な利用について学習しなければなりません。加えて、核兵器や原子力エネルギーの使用による悪影響の一つは環境へのインパクトであり、環境保護に向けた近年のサイバー空間での活動は環境に対する核兵器の破壊的な影響を示すことができます。環境運動が始まって以来、またこうした運動を通じて、人びとは地球温暖化や環境への被害について多くを学んでいます。核兵器の使用は地球の住民にとって大きな脅威であるばかりでなく、環境にとっても最も重大な脅威の一つであるということです。私の考えでは、環境保全運動と同じような運動を立ち上げ、このトピックに対する一般市民の意識を高めてさまざまなコミュニティに核兵器の危険性に関する情報を提供することができるでしょう。さらに、このエネルギーに関する適切な文化を学校で教えることも可能です。

最後になりますが、広島市の平和首長会議のメンバーと広島市立大学には、今回のチャンスに対し私がどれほど感謝しているか言い表せません。日本で過ごした時間は信じられないほど素晴らしいものでした。私たちが世界中で平和を推進し、世界中の核兵器を廃絶できるよう願っています。